

会 議 の 名 称	令和6年度第2回茅野市総合計画審議会		
開 催 日 時	令和6年9月19日（木） 18時30分～20時45分		
開 催 場 所	茅野市役所8階大ホール		
出 席 者	※委員：矢崎会長、高村副会長、林委員、小池正雄委員、伊藤委員、小池文人委員、田子委員、市川委員、鈴木委員、濱田委員、百瀬委員、深井委員、両角智男委員、丸茂委員、小平委員、帯川委員、野崎委員 ※市側：柿澤副市長、熊谷地域創生政策監、平澤総務部長、小池企画部長、井出健康福祉部長、黒澤都市建設部長、五味こども部長、上田生涯学習部長、矢島総務課長、清水環境課環境保全係長、吉瀧ゼロカーボン推進室ゼロカーボン推進係長、荒井社会福祉課高齢福祉係長、小林商工課長、北澤こども課長、大蔵企画課長、伊藤企画課企画係長、小松企画課企画係主査		
欠 席 者	※委員：入倉委員、中島委員、両角良久委員、磯井委員、北原委員、野崎委員、萩尾委員 ※市側：両角産業経済部長、平沢市民環境部長、大蔵環境課長、矢嶋生涯学習課長、牛山DX推進課長、久保山地域創生課長		
公開・非公開の別	公開・非公開	傍 聴 者 の 数	3人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容（概要）		
会長	○議事 1 開会 2 会長挨拶 3 副市長挨拶 4 協議事項 （1）第6次茅野市総合計画基本計画の策定について資料1 （2）第5次茅野市総合計画の進捗状況について資料2 （3）その他 5 その他 6 閉会 ○議事録 1 開会 2 会長挨拶 こんばんは。前回の審議会から約2か月が経った。前回は、6次総の基本構想について、皆さんに検討いただいたところだが、本日はその基本構想をベースとした基本計画について検討する。特に各分野から委員として出席いただいているので、それぞれの所属分野に関しては、特にご意見等を賜りたいと考えている。5次総の基本計画との整合についても検討しているところであり、その点についてもご意見等をいただきたい。お手元には、かなりボリュームのある資料が配られていると思うが、審議会の進行に関してご協力いただき、スムーズな運営をしていきたい。よろしくお願いします。		

副市長

3 副市長挨拶

本日は6次総の基本計画の協議ということで、若干、基本構想策定の背景となった部分を改めて振り返ってみたい。6次総の基本構想においては、非常に急激な人口減少社会の中で、これからどのようなまちづくりを行っていくかというのが大きなテーマであると思っている。

まず、諏訪東京理科大学の公立大学法人評価委員会の提言の中でも触れられたが、諏訪地域の人口減少というのは大きな課題である。諏訪地域の出生数を見ると、令和5年は992人ということで、初めて1,000人を下回った。10年前の平成25年は1,591人だったので、約600人が10年で減っていることになる。20年前の平成15年からは1,049人減っていて半分以下になっている。茅野市も同じような傾向で、平成14年の619人が出生数のピークだが、令和5年は310人ということで半減している。10年、20年経った時、子どもたちは半分の人口でこの地域をまわしていかなければいけないといった状況になっている。

一方で、諏訪地域全体の人口は、令和5年は18万9,007人で茅野市が5万5,399人で29.3%と占めている。茅野市は人口が増えているが、出生数で比較すると、諏訪地域全体の992人に対して茅野市が310人ということで31.3%ということは、現在の人口より茅野市の出生数が2ポイント多く、茅野市以外の諏訪地域の出生数が落ちているということになる。これは6次総は茅野市のまちづくりの計画ではあるが、実際にこれを展開する時には、茅野市だけが良いという話ではなくて、茅野市のまちづくりをしながら、諏訪地域全体、生活圈全体としての諏訪地域のテコ入れということを考えていかなければいけないと思っている。

もう1つは人口減少社会の中で、どうやってバランスの良い地域社会を作っていくかということが大きな課題になると思っている。茅野市は、新しい地域社会を作る仕組みづくりに向けて行財政改革とDXを進めているが、例えばDXは、人が少ない中で効率化を図っていくということではなく、ゆとりを作っていくことが大事だと考える。よく縄文時代のことで言われるが、当時の暮らしの中では、1日3時間ぐらい食料を採集すれば良く、それ以外は想像の時間が取れたということを言う先生もいる。確かに、土器などは暮らしにゆとりとか余裕があるから作り出せるし、創造性がないと作れなかったと思う。そう考えると、現代においては、働くことで本が読めないというような話になるが、こうした余裕のない社会を作ってしまったのではないかと考えている。それが6次総を進める中で、人口減少社会においてもゆとりを含めて、もう一度新しい社会を構築することができれば、それは茅野市にとって重要なことだと思う。人口減少社会の中で、移住を呼び込むだけではなくて、こういう生き方を考えると、もしかしたら新しいモデルが提供できるのではないかと、そのようなことも含めて、6次総の基本構想を具現化するための基本計画について、本日は様々なご意見等を頂戴できればありがたいと思う。よろしくお願ひしたい。

4 協議事項

- (1) 第6次茅野市総合計画基本計画の策定について **資料1**
＝事務局が説明＝

会長

作業としては、まだすべてを落とし込めていない状況である。特にここに注意をしてもらいたいといった点があれば、本日お出しいただきたい。各分

	野から出席いただいている皆さんから、一言ずつご意見等いただきたい。
委員	非常に良く練られた作りだと思う。自分が関連する分野は１－１、１－２、１－３、１－４だと認識している。福祉２１の議題にも上がり議論を重ねてきて、ここに載っている部分もあれば、まだ議題に上がっていないものも出ていると思った。いずれにしても、今後議題として進めていくべきという意味で、概ね了解できる内容である。 １－４の左下の「医療提供体制の充実」に、少し認識が違うと思ったところがあり、修正をお願いしたい。 諏訪中央病院は民間が担わない不採算医療の提供を使命にしており、だから財政支援が必要だと書かれているが、現状、地方の公立病院が赤字体質にならざるをえないというのは全国共通の課題であり、別に不採算医療を提供するのは、使命の一部と認識しているかもしれないが、そういうことで、財政支援が必要なわけではないと思う。私は今、民間で医療を提供しているわけだが、民間医療が決して不採算医療を担っていないわけではない。この辺は認識を改めていただいて、表現を検討していただきたい。
事務局	ご指摘のとおり、この表現は完全な誤りである。基本的には公立の総合病院として、広範に渡る医療提供体制、もう１つは、地域医療に取り組むためにということで財政支援を行っているということである。表現については、改めて福祉２１ 茅野と協議をさせていただいた上で見直しをかけていきたいと思う。
会長	吟味していただいて的確な表現をよろしくをお願いしたい。
委員	まず、社会福祉については、この５年間で団塊の世代が後期高齢者に繰り上がってくる時期になるため、ここにある「安心して快適に暮らせるまち」について、着実に実行できるような枠組みの整備やチェック、点検を行っていただきたい。こうした意味では、この総合計画が非常に大事になってくると思う。 環境・衛生について、しっかりまとめていただいていると思うが、前回の会議でも申し上げた３Ｒの取組はもちろんだが、サーキュラーエコノミーを見据えたスタンスを入れ込み、バージョンアップができるのであれば検討いただきたい。
委員	道路・河川、上下水道について、市民意識調査の指標が掲載されているが、基本計画の内容とずれているような気がする。市民意識調査というのはどういったもののなのか。
事務局	市民意識調査は、国が示すウェルビーイング指標を活用しており、設問も国が決めたものになっている。したがって、基本計画によってはマッチしないものもあり、現状では一番近いと思われるものを据えている。すべての基本計画にこの指標を入れ込む必要性も含めて、今後、検討させていただきたい。
委員	子育て分野について、基本計画の内容をチェックするということだが、まず、この基本計画の内容を私１人を見て、答えられない部分が正直ある。昨

	年、第3次のどんぐりプランの見直しを行ったり、ここで学校再編の問題などもあるので、できれば1回幹事会に持ち帰り、様々な団体の方の意見を聴きたいと思っているが、それは可能なのか。そして、期限はいつまでなのか。 また、前回の会議で行財政の話もあり、お金のことも考える必要があると思ひ、この間、市の財政課の方に来ていただいて茅野市の現状などを勉強する学習会を行った。現状、他の分野のことを知らなかったり、実際茅野市はこれからどうなっていくのかなどがわからない状態である。そして、分野ごとの話をしていると、その分野だけ見てしまい、あれも足りない、これも足りない、といった話になってしまう。そこをしっかりとトータル的に見ていきたいと思っている。
事務局	次回の会議を10月31日(木)に予定しており、それまでにはある程度の形にしたいと思っている。しがたって、9月中には方向性を示していただければありがたい。現在、各分野において選択と集中の考え方の中で取組をピックアップする作業を進めていただいていると思う。先ほども申し上げたが、この総合計画自体は、ここでカッチリと中身を決めてしまうというのではなく、まず、このタイミングでリリースして、動かしながら、いろいろな交流、連携をする中で、取組が組み合わさり、より有効なものになってくる可能性がある。そういったものを常にローリングで見直していく、そのようなやわらかい計画でありたいと思っている。
委員	市民団体等の協議を進めたい。私たちも子育てのアンケートなどをしながら現状を把握している。市でもいろんなアンケートをやっているのも、そういうものも活かしながら、ここでせつかく総合計画を作るのであれば良いものにしたいという思いがある。この間も話したが、ピラミッドのようにならうまく各分野や施策などがつながっていくと、これからやらなくてはいけないことをみんなで解決するということにもつながっていくと思う。
委員	初歩的な質問になってしまうが、この総合計画を、私たちはどうやって知ることができるのか。正直私もこの審議会に入っていなかったら、実際の生活の中では多分、目を通すことがないと感じている。これだけ多くの方が関わって検討しているものなので、わかりやすく市民の皆さんに発信できると良いと思う。 自分が関連する分野を見ると、自営で仕事をしながら子育てもしているが、子育ての分野、2-1は、すごく細かく色々なことが書いてあるが、次の教育の分野がすごく少なくて、何が違うのかと思ったときに、要は、妊娠、出産から保育園に上がるまでは手厚いが、学校に入ったら中身がないのかと第一印象で感じてしまう。子どもが学校で過ごす時間はとても長いので。教育の分野がもっと厚くなれば良いと思う。 もう1つ、女性の雇用や女性の起業・創業などの支援を手厚く行っているということだが、そこは子育てとは切っても切り離せないものであると思う。働きたいけど、なかなか子どもを預けられない、子どもを少し見て欲しいが気軽に預けるところがないという声もすごく聞く。私も保育現場で働いたことがあるので、人手不足は良くわかってはいるが、やっぱり保育園の一時保育を頼ってしまう。こうした部分を充実できたら良いという思いはあるが、やはり課題がすごくたくさんあると実感している。

事務局	貴重な意見をいただいた。伝えることは非常に重要だと認識している。この6次の総合計画は、厚い冊子にするものではなくて、ホームページで見られる状態にするとともに、イラストを入れたりして、親しみやすく、色んな人が見ていただけるものにしていきたい。 今回の計画の中には、「自分ごと化」とあるが、まさにそのように計画に関わっていただきたいと考えている。そのためにも、しっかりと伝えていきたい。 女性の起業・創業に当たっては、多くの方から一番欲しいと言われるのは託児であり、また、保育園の充実などもの声も多く聞かれる。保育士が不足しており難しい部分もあるが、そうした声は認識しているということだけお伝えしたい。教育の分野の書きぶりについては、担当課と協議の上、他の分野のボリュームと合わせていくようにしたい。
委員	改めて、基本構想から読ませていただき、その最上位にある幸せを感じる、実感とかつていうところがとても重要で、共感し、その通りだと思っている。そのためには、交流というのが大事だと思い、読むたびに二重丸をつけたぐらいである。しかし、この基本計画において、社会教育とのつながりの中で決定的に欠けていると思うところを、少しでも補えるのであればということで意見させていただきたい。私自身が感じているのは、幸せを感じるということは人と良い関わりを持つことであり、それが交流という言葉で述べられている。この交流というのは、交流が進んだら良くなるよね、では、どうしたら良くなるのかつていうところの問題分析や方法論というのがまだ足りておらず、なったらいいいね、で終わっていると感じた。また、前回の会議でも触れたが、自分で決定できるということも幸せの実感になると改めて感じた。心理学の中で、このウェルビーイングとの関連で位置付けられているものに、自己決定理論というのがあった。これは、内発的動機で自分が動くときに一番モチベーションやパフォーマンスが上がるというもの。その3要素として、自立性、有能感、関係性がある。ざっくり言うと、自立性というのは自分の意思で選択しているかどうか、有能感というのは、それがうまくやれているかどうか、自分の能力が発揮できていると感じているか、関係性というのは人との繋がり、親密性を感じるかというもの。 そうすると、この総合計画の最初の問題意識である、人が減ったからまちづくりがなかなか難しくなったという認識が違うのではないかと考えている。実は、公民館、社会教育でも、人はいるけど、なり手がいない、要するに人がいないのではなく、人はいるけど成り手がいない状況が起きているということである。これはどうして起きたのかと言うと、確かに人と人とのつながりが希薄であるということはある、その希薄性がなぜ生まれたのかを考察したときに、2つの側面があると捉えている。1つは、直接人とかかわらなくても、良い感じに世の中が動くようになかったこと。例えば、市役所がとても良いことをしてくれるので、市民は丸投げで済んでしまうような状況を作ってきた。その結果、何が起きているかというと、市が決めたことを一方的に市民に通達する、つまり自己決定していないことが上からくるということ。そうすると、モチベーションが下がり、反発が生まれ、それが結局、自分とは関係ない、無視するというところに繋がっているのではないかと考えた。 そこに関われる仕組みというのがパートナーシップのまちづくりであり、それをこれから充実すると基本構想に書いてあるが、どういう方向に時

代に合った形に充実するかが書いていないのが不安要素である。いずれにしても、関われる仕組みづくりは重要であると感じた。同時に、自分が考えを持つことができないといけないのではないか。これは公民館活動において、自分たちが自治をする上で学習するというのがスタートであると社会教育の中では捉えている。そういった点で、実はこの基本計画を見ると、生涯学習に社会教育という観点が少し欠けている。学べる環境の充実とあるが、これは従来から言っていることであり、改めてここで書かなくても良いのではないか。そのようなことがたくさん書かれている。重要なのは、学んで、自分たちで決定していく、自治につなげる、意見を持って市政に参加するといったテーマこそが重要ではないか、そこが社会教育として欠けているのではないかと議論しているところ。実は自分は社会教育に20年近く関わっているが、ここに書かれている個人個人の学習、文化的な教養の学習がずっと議論されて、それで良いのかと思っていた。今のまちづくりの問題について市民はどこで学ぶのかと考え方ときに、やっぱり学ぶ場所がなかったということ。それが社会教育であり、それが Well-being に繋がっていくのではないかとということで、その充実が必要だと思った。

社会状況の捉え方にも大きい問題があって、産業が発達したことによって、人が直接関わらなくても、色々なものが手に入るようになった。昔、作業が貧弱だった頃は一緒に作るとか作業することをやらないといけないから、隣近所や地縁の関係性は必然的だった。しかし、産業が充実してくると、お金を払ってそれが手に入る。つまり直接人との関わり合いがなくなってきたから、それを加速するような状況でこの数十年来たのかなと感じている。そうなると、これからのまちづくり、コミュニティというのは、関わらないといけないという何かを意図的に作らないといけない、それが社会教育じゃないかなと感じている。昔は必然的に近くの人を必要とする社会状況であった。しかし、産業が充実する中で、便利で、直接人とかかわらなくても物質的なものや情報が手に入る。こんな状況だと近くの人はいらなくなってしまう。これが社会状況の変化であり、そこを意図的にしないといけない。希薄な人間関係というのは、人口減少とか高齢化ではなくて、そこに問題があると感じている。

あと、他分野の話になるが、働く場所を作ろう、新産業を興そう、それが人が集まる源だと言っていて、これ自体は重要で大切だと思うが、自分が出会った移住して来た人は、仕事以外で来ている人もたくさんいる。ここの土地、ここの文化で暮らしたいから来ているとなると、何か非常に合理化を進めて色んな改革をしてしまうと、ここに来る魅力をもしかすると失わせてしまうかもしれない。そういった取り返しのつかない破壊をしないようにしないといけない。効率化などをするのはミスマッチで、逆に将来に禍根、遺恨を残すのではないかと感じた。

公立諏訪東京理科大学で、今年会社を起こした学生がいる。この子たちは、この地域と関わり合いを続けたいので、仕事を自分から作ったと言っている。だから結局仕事を用意しないと人は来ないわけじゃなくて、ここと関わりたいたいということがやっぱり最初にあるのだと思う。そのようなことを促進するのが良いのかなと思った。

行財政改革の部分で、効果が測れないものは削減するとあったが、効果というのはどうしてもお金とか見えるものになりがち。見えない価値ということが重要なのではないか。そういったことが公民館活動などで展開できると良いのではないか。基本的に行政がやっていることは、お金、ビジネス

	になじまなので、採算が取れるわけがない。そこを採算で見るっていうのはちょっと違うかもしれないと思った。 最後に、2-2に学校再編を進めると書いてあるが、進めるということがここに突然入っているのはいかがなものか。市民と対話しながら進めるというのは良いが、再編が先に決まっているようなことになりがち。今議論が始まったばかりである。過去の議論を見ても出てこなかったのに、突然ここで再編を進めるという文言が計画にあるというのは、どうなのかと思った。
会長	参考にさせていただく。事務局、何かあるか。
事務局	社会教育の書きぶりについては、関係部署と協議をしたい。先ほど、関わりというお話があったが、大変重要な視点と捉えている。このタイミングでこうした技術的な部分は落とし込めないかもしれないが、今後、市民等や公民協働のあり方のようなものを検討する際に、このような話も出てくると考えている。公民館は学びと実践の場ということで、これまでも、福祉や防災など様々な分野において、いろんなところで、いろんなテーマについて、いろんな人と一緒に話し合っ、実践されてきたというプロセスがある。今後、そうしたものを再構築していくということだと考えている。
委員	冒頭に、10年先、20年先を見据えて、この5年間で重点的に、という部分は、総合計画なので当たり前だと思うが、この視点とは別に、今生活している人たちが、自己肯定感や参加意識のようなものを感じとれることを、すぐにやっていくという姿勢が大切だと感じる。 もう1つは、先ほどもあったが、自分事にしていくことが多分一番大切なことだと考えていて、市民が参加するような仕組みが、総合計画の頭に据えてあった方が良い、そんな印象を持った。もう1点、学校の教育について、義務教育の方針があるので、あまりタッチできないということだが、本来ここが一番重要なところだと思っていて、もっと、市民が学校教育の中に入っていきべきじゃないかなと、そういう意見を持っている。
事務局	教育について、義務教育の内容は国がある程度進めるものもある一方で、市独自で茅野市の子どもたちの教育をどのように考えていくかという部分は、今、「縄文のビーナスプラン」という名称で、学びの環境を検討している最中である。
委員	教育の分野から委員になっているので、1つ絶対言わなくてはいけないことがある。大学は教育機関ではないのかと、なぜ大学がここにいるのかということ。高等教育も教育である。自治体で大学があるところは非常に少ない。大学をこの教育の分野の基本計画にどうやって入れていくかというのが重要である。今文科省が、高等教育のあり方について検討を進めている。これを今なぜやっているかと言うと、今後子どもの数が減ると、当然進学者が減ることになる。そうなった場合に、毎回議論に出てくるのが、自治体が高等教育にどう関わっていくか、もっと関わっていくべきである、といった話がある。来年の3月に文科省に答申が出た後に、多分、県経由で、当然公立大学の組合の構成自治体に通達のようなものが来る。それに向けて、やはり大学のことを基本計画に入れていただきたい。 また、人材育成のところに産学公等の連携で、と書いてあるが、これを有

	機能的につなげるのは相当難しいことだろうと思う。そこをつなげるためのコーディネーターがいるとは思いますが、そういう人材をどうやって育てていくかということも、よくよく考えていただきたい。 最後に、大学には住民票を移している学生や、移していない関係人口もいると思うが、1,000人強の学生がアパートを借りてこの地域に住んでいると思う。これは非常に大きな人数であり、それをこの5万5,000人のまちでどう活かすかというのが、交流という意味では多分一番大事なことだと思っている。まちの魅力も相まって、東京の大学に行っている人は多いと思うが、我々の大学の魅力を上げるためにもやはり地域の魅力も合わせて上げていかなくてはいけないと考えている。そのためには今後、市民の方に寮母さんのような役割を担っていただく、それが先ほどのコーディネーターだと思うが、そういう人をぜひ自治体で作っていただかないと、多分これからの大学は生き残れない。公立になったから生き残れるわけではなく、地域の魅力とともに大学が歩いていくというものを打ち出すようなものを基本計画に入れ込んでいただくと、市民も大学があって良かったと思うと考えている。そこはぜひやっていただきたいと思う。
会長	公立諏訪東京理科大学は茅野市の宝である。盛り込まなくてはいけないと思う。事務局から何かあるか。
事務局	おっしゃる通りである。大学は地域に労働力も供給いただいている。また、学生にはこの地で消費していただいているということもあり、その位置付けも重要であると思っている。そういったところも含めて、書きぶりをご相談させていただくことになると思うが、よろしく願いしたい。
委員	31ページにあるまちづくりの3つの成果指標、目標にすごく違和感がある。すべて維持とあり、これを目標にして良いのかなと感じている。そもそも現状維持は下がってくだだけ一般常識であると思うと、10年後、今の維持だったら、新しいブレイクスルーは何も起きないし、世の中がどんどん変わる中で、何かにしがみつくようなことしか起きないのではないか。この目標を見直していただく必要があると思う。 また、例えば、産業はどんどん増やさなければいけない部分はもちろんあるが、そもそも起業・創業の促進というのは、どこの自治体もやっていて、その先の定着はどうするのか、起業・創業するだけで良いのか。定着して、収入を上げてくれて、税収を上げるというところに繋がっていかないと、この施策を進める意味が出てこないし、それをやろうとする時に、やるべきことが見えてくるという感じがしている。定着してもらうための支援策というか、何か施策が要るのではないかと感じている。 この間、労働組合の方とお話しする機会があり、長野県全体で今130か国の人が働いているという数字を聞きびっくりしたが、これだけの人が働いていて、もし労働問題が起きたときに、県の中で通訳をできる人がなかなか見つけられず、それを解決したい外国人たちが、そこから先に進めないままにいるという話をお聴きした。もし外国人の労働者をこれから増やしていくとしたら、そもそも、どういうコミュニケーションをその人たちと取れるような施策を茅野市は取っていくのかということがすごく気になるところ。そもそも茅野市の中にはどれくらい多くの国籍の人がいるのか、その人たちが果たして国を離れてこの地に来て、ここで幸せを感じ、茅野市に定住

	すると思えるかということも大事だと思う。 これからどんどん人口が減ってしまったら、国籍を問わず、この地域が好きだと思える人はこの地域で働いていただいて、生活をここで維持し、この地に住んで良かったなって思えるような施策を今から打っておく必要がある。今の統計にあるように、今後、日本、そして茅野市に住んでいる人が減っていくことを基準にしていたら、やるべき施策が小さくなってしまっているのではないか。そういったことにとても違和感を持っている。そうした意味で、10年後を統計の数字から維持という目標を導き出すのではなく、茅野市としてここを目指そうというのをちゃんと発信して欲しい。それがまず第一歩ではないかという感じがしている。資料とするとすごくよくまとまっているし、見やすいし、色を多用してくれているので、わかりやすいし、目に飛び込んでくるだけに、何かインパクトのあるパンチの効いたものがこの中のどれなのかが良くわからないという感じがする。 最後に、行財政改革によりいろんな施設が消えていく中で、実は、北海道のスケート選手にご縁があってスポンサーになったところ、テレビ中継社名が映り、選手の口から社名を言ってもらったら、社員のモチベーションがすごく上がり、会社で、500mのスピードスケートの競技を見に行くことになった。ご本人はミラノオリンピックを目指しているということで、出場することができたら社員旅行で応援に行こうと考えている。せっかくスピードスケートという茅野市として誇れるものがある中で、スケート場もなくなるかもしれないといった話を聞くとすごく切ないと思っている。地域の資源として今まで活躍してきたものをどうやって取り上げて生かすか、この仕組みを作ることこそ大事だと思っている。そして、自分の企業の名前を付けた選手が仮に出てくれたりしたらすごく嬉しいし、そこに大きく茅野市と入っていて、自分の地域を誇れるかなと思うと、何となく夢があって、ワクワクして、人口が増えているかもしれないと思える、そんな施策をぜひ入れていただきたいと今更ながら感じた。
会長	いくつか取り入れてもらいたいこともあった。事務局いかがか。
事務局	まず1つとして、基本構想のKG Iの3つについては、以前、総合計画審議会から市に答申されたものであり、議会でも議決をいただいたもので、手を入れることはできない。この目標は現状維持とはしているが、それだけでもかなりハードルが高いという認識の中でご議論いただき、固まったものと認識している。もう一つ、外国籍市民の方の雇用や労働力について、茅野市には30以上の国の方がいらっしゃるが、すべての国の方に対してケアできてはいないと捉えている。5か国語のガイドブックのようなものを作っているが、市としても、こうした人たちを大切にしていきたいと考えている。
委員	どの産業においても、経営資源というのは、人、モノ、お金というのが一般的である。お金に関しては、銀行の方も、つぶれる会社は少ないし、しっかり経営している社長さんが多いとの話を聞くので、心配は正直そんなにはないような気がしている。モノというのも、確かに工業では広い敷地が欲しいという話が出るが、お金さえあればモノも用意できる。では何が弱いかというと、おそらく人なんだろうなと感じている。実は、理科大に1年生で入ってきた学生さんが、数学が全然できなくて、大学の授業についていけな

	いので、高校の数学の授業をやったことがあるといった話を聞いたことがある。また、実際に企業に入ってきて、仕事についていけないという話も良く聞く。おそらく力を入れるべきは人ということになるだろうと思う。実際、産業振興プラザや商工会議所が、人材育成という目的で、講演会やセミナーなどをやるが、出てくる人が少ないと聞いている。的を射ていないという話なのか、関心がないのか、そもそも勉強が嫌なのかかわからないが、「人が足りないから出てくれない？」といった話も実は良くある。どうしても人というものを考えていかなくتهはいけないと考えると、人材育成というところが、ここの中では少し弱いと感じる。それは社会人になってからというより、子どもの時からやっていかないといけないと思った。
委員	3-6について、茅野市の強みに、田舎暮らし楽園信州茅野協議会の活動を入れていただいている。この協議会は、宅建協会と、商工会議所、茅野市の地域創生課、移住・交流推進室の三位一体の共同事業で、移住希望者のために年4回バスツアーとして、実際に見学できる物件をピックアップし、1日かけてご案内するという企画をやっている。ここに成果指標と目標ということで年間参加者数とあるが、現状、令和4年度が88人で、1回だいたい20組超の方が参加している。コロナ禍がピークと思っていたが、コロナが終わってからも参加者数は減らず、逆に問い合わせが増えている状況である。10月19日に見学ツアーを予定しているが、すでに今の時点でキャンセル待ちの状態であり、茅野市が非常に注目されているということである。 しかし、茅野市の強み、魅力としてはちょっとボヤけている感じがする。例えば、流山市は子育て世代がものすごく移住しており、それは幼稚園から小学校までが無償だったり、子育て支援の施設がものすごく充実してるだとか、かなり特化している部分がある。茅野市も「若者に選ばれるまち」という目標を掲げているので、何かに特化するのはなかなか難しいとは思いつながら、しっかりと目標に向けて取り組んでいく必要があると感じている。 この総合計画だが、先ほど、各基本計画を関連付けていくと言っていたが、交流人口ということになると、やはり観光と紐づくだろうということで3-3を、また、シティプロモーションという、やはり茅野市を広めていくというところで、3-5を関連付けていただきたい。もっと言うと、多様性の尊重ということでひとまとめにされているが、移住希望者のニーズは様々であるという部分は、子育て世代もいらっしゃるし、少し年齢層が高い方もいるが、車を持ってない方も多いことを考えると公共交通の分野とも紐付いてきたり、いろんなところと紐づいてくる。しかし、この計画書に全部落とし込むと非常にボリュームが多くなってしまうので、計画を練る過程として、そのようなことをご承知置きいただき、またどこかの場面で意見交換させていただければと思う。
会長	盛り込んだ方が良い内容だと感じた。事務局よろしく願ひしたい。
委員	ご意見等をお聴きする中で、やはり茅野市自体の魅力を作り、移住などで人に住んでもらうことが必要であり、それにプラスして、企業誘致が非常に大事だと思った。同時並行で、人を集める目的で雇用も求めていくことも非常に大事である。大きな工場は、外部から数百人単位で人が集まってくる。

	その波及効果として色んなところに住居や学校の生徒が増えることは非常に素晴らしいと思う。同時に、ワークラボ八ヶ岳は茅野市の強みである。ここは、若者や女性が起業・創業、U I J ターンを検討できる起点の場所として非常に良く、やはりこういう場所が必要だと思っている。ただ、詳しいことはわからないが、オフィススペースの引き合いが多く、現状不足しており、新しい人が利用できないと聞いている。したがって、こうしたスペースの拡充も1つ大事な要素であると考えている。いずれにしても、ワークラボ八ヶ岳を軸にした企業誘致、例えばI T 関係など、若者が魅力を感じる分野の企業が誘致され、若者が選ぶ産業が生まれることも連想できるので、そういったことも大事にしていければと思っている。
委員	行財政改革は、この計画の中では基本となる手段という位置付けであり、随所に赤い枠で基本計画に盛り込まれている。審議会としては現在、スケートセンターの存続について審議しており、近々答申を行うという段階にこぎつけている。そんな状態なので、記載されている事項のうち、優先順位に基づき改革が進められ、その進捗が、次の審議事項ということで、審議会にかけられると思われる。したがって、この赤枠の「手段」に対するコメントは現在特にはない。ただ1つ言えることは、どの計画も、すべてお金がついて回る、市民の税金がついてくるということ。市民の税金をどう分配するかということは、そこに責任が伴うということである。それぞれの気持ちで思いを述べていただくのは結構だが、最終的にはお金がかかる、市民の税金をどう分配してより良い茅野市にするかというところが重要になってくる。私の立場では、それを意見として申し上げたいと思う。
委員	今回設定していただいた基本計画に、基本となる手段・価値観など横断的な位置付けのものがアイコンで表示されていたり、見開きでどういう連関があるのかというのが見やすくなっていて、ご尽力されたんだということがわかった。G X ・ゼロカーボン分野を横断するので、特定のところというより、全体のコメントをさせていただければと思う。基本となる手段と価値感の基本ポイントという太字の6ページのところでK G I を設定していただいたということだが、数字がすごい大きくて、びっくりしている。今、総裁選で元小泉環境大臣が46%がおぼろげに出てきてかなり物議を醸しているが、それを上回るような、すごい目標である。例えばC O 2 の量で見ると、基準年と言うと10万トンから5万トンに減らすような、かなり大きい削減量である。茅野市で暮らしている方は結構車を使うと思うが、例えば車でどれくらい減らすかをこの数字で置き換えると、月1,000キロ乗る場合は、年間600リットルガソリンを消費する。その時にだいたい1.3トンのC O 2 を排出することになるので、5万トンに減らすということは3.7万台をこの前の5年間からこの先の5年の間に減らすということになり、かなり意欲的な目標だと感じた。また、例えば、各分野のK P I を見ると1-9の公共交通でいうと、現状では、一人当たり年1.9回を2.1回にすることでどれくらいC O 2 の削減になるのか、目標K G I とこういった各施策のK P I との関係性が見えると良いと感じた。 また、先ほど他の委員からご意見があったが、こうした意欲的な目標を達成するためにはお金が必要であり、かなり投資的経費をかけて、すごい力を入れていくっていう覚悟を持った数字であるのか少し気になった。

会長	数字の設定について、その経緯は把握しているか。
事務局	この目標値は、この春先に策定した茅野市ゼロカーボン戦略から引用したものである。 ご指摘いただき、改めて非常にチャレンジングな目標であることを認識したところである。具体的な施策については、この基本計画に落とし込まれていないが、今後、環境・衛生の分野に入れ込みたいと思っている。
会長	様々なご意見をいただいた。次に協議事項の2について、説明をお願いしたい。 (2) 第5次茅野市総合計画の進捗状況について 資料2 ＝事務局が説明＝
会長	第5次総合計画の進捗状況等について事務局から説明があったが、何かご意見、ご質問はあるか。この振り返りの内容が、第6次に繋がっているということである。 なし
会長	それでは協議事項のその他として事務局何かあるか。
事務局	本日欠席された委員もいるので、9月27日（金）までに、ご意見、お気づきの点等があったら、メールでお寄せいただきたい。次回の会議は10月31日（木）を予定している。改めてご通知をお送りさせていただく。 次回の会議で、基本計画の内容を確認いただき、11月中旬頃までには基本構想と基本計画が一体となった総合計画をリリースしたいと考えている。
会長	その他、何かあるか。
委員	今、日程をお話しいただいたが、実は自分が所属する団体の幹事会が、来週の9月24日（火）にあり、そこでこの基本計画を皆さんにお話しして、それから各団体に持ち帰っていただいて、見ていただいて、いろいろ意見をいただきたいと思っている。そういったものも含めた上で見直そうとすると、9月27日（火）の期限は結構きついと思っている。その辺は何か猶予的なものはあるのか。
事務局	特定の分野だけ延ばすということは難しい。基本的には9月27日（火）までに出していただきたい。
委員	本日、皆さんの話を聞いていると、これはちょっと難しいかなと思い始めてきまして、ちょっと心配になってしまった。一応できる限りという形でお願しようとは思っている。当然難しい場合もある。その時は事務局を通してご相談させていただこうと思う。申し訳ないがよろしくをお願いしたい。

会長	それでは協議事項はこれで終了とさせていただく。 事務局に進行を戻す。 5 その他 なし 最後に閉会の挨拶を副会長からお願いしたい。
事務局	6 閉会
副会長	ボリュームのある資料だったので、お疲れにもなったと思う。今日、何度か自分ごとという言葉が出てきた。この総合計画は、とてもとても遠いことのような気がするが、実はその計画、事業の中に今私たちは身を置いているのも実際のことであり、実は本当はすごく身近なものではないかなと私は思っている。 今日も10人いれば10人のご意見があり、色んな視点の色んなご意見をいただいた。そこから発想していただいて、次の何かに繋がるものが必ず生まれてくると思う。自分ごととして各々どんな形に、自分のペースで、花開くかと今回ちょっと楽しみだと思ったところ。 以上で第2回茅野市総合計画審議会を終わりにしたいと思う。ありがとうございました。 以上